

## 名古屋大学博物館のオンライン化に向けた取り組み —博物館ウェブサイト「おうちで名大博物館」の設置について—

### Online activities of Nagoya University Museum —About the establishment of the web site ‘Nagoya University Museum at Home’—

宇治原 妃美子 (UJIHARA Kimiko)・梅村 綾子 (UMEMURA Ayako)・  
藤原 慎一 (FUJIWARA Shin-ichi)・門脇 誠二 (KADOWAKI Seiji)

名古屋大学博物館  
Nagoya University Museum

#### 要旨

コロナ禍による臨時休館時に、博物館オリジナルの教育コンテンツを市民に届ける方法として、博物館ウェブサイトに新しいページ「おうちで名大博物館」を新規掲載した。「おうちで名大博物館」に掲載するコンテンツは6つとし、①館内のようす(ドローン動画)、②博物画を知ろう、③常設展示紹介動画「ホンモノに会おう」、④野外観察園だより、⑤よみもの、⑥ホネパズルの6つとした。

In response to the prolonged closure of Nagoya University Museum due to the COVID-19 calamity in 2020, we have posted a new web page, ‘Nagoya University Museum at Home’ on the museum website as a way to deliver the museum’s original educational contents to the public. Six contents were posted in ‘Nagoya University Museum at Home’, including 1) Inside the museum (a video taken by a drone), 2) Let’s know the natural history illustration, 3) Let’s meet real things: introduction movies of permanent exhibitions, 4) Posts from the Botanical Garden, 5) Essays on the museum collections, and 6) Skeleton puzzles.

2020年の年始頃からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響より、世界中の博物館などの施設が臨時休館を余儀なくされた。日本においても、春には緊急事態宣言が出され、多くの博物館・美術館がオンラインで館内や収蔵品を紹介する動きが徐々に増えはじめた。

名古屋大学博物館は、2020年2月から臨時休館となった。重要な情報発信のためのオンラインツールである当館ウェブサイトは、展覧会やイベント情報がトップページに多く掲載されており、それらの情報を「中止」と表記するものが目立っている状態であった。

博物館とは、従来はホンモノを見て触れながら学べる機関なのだが、休館中にも博物館オリジナルの教育コンテンツを市民に届ける方法として、まずは「第26回特別展 アフリカから東山キャンパスまで 名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」の展示紹介PDFファイルを博物館ウェブサイトにて掲載することとした(図1)。PDFの掲載URLはこちらである (<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/docs/200317pics.pdf>)。

2021年度になり、他館ではオンラインコンテンツとして、「おうちで博物館」「おうちで美術館」など、家に居ながら楽しく学べるものを、ウェブサイトに掲載する動きが急速に増えつつあった。



図1 第26回特別展「アフリカから東山キャンパスまで 名古屋大学による遺跡調査からみる人類史」の展示紹介（公開したPDFファイルから抜粋）。

当館でもオンライン用コンテンツの開発が急がれていたが、大学によるテレワーク勤務が推奨されており、スタッフ同士の意思疎通が従来のように進みにくい状況の中、すでにある画像・動画・コラム等をまとめ、観やすくし、さらにミニ動画を撮影し、「おうちで名大博物館」ウェブページを新規掲載する案を打ち出し、スタッフ会で了承を得て制作することとなった。

まず、資料標本画像をウェブに掲載するのにあたり、ウェブサイトの「標本資料の利用」の「画像利用の場合・名古屋大学博物館画像等利用内規」に抵触しないかを門脇が確認を行なった。「おうちで名大博物館」のベースページのデザインは宇治原が行い、ウェブページ制作は荒川印刷に発注した。ベースとなるページのトップ画像には、名大博物館の収蔵資料のマッコウクジラの骨格標本などの画像を背景にし、各コンテンツの画像を6個配置して、見やすくなるよう考慮した。URLはこちらである (<http://www.num.nagoya-u.ac.jp/media/ouchi/index.html>)。ウェブサイトトップページバナーにも「おうちで名大博物館」のバナーを作成し、トップページから誘導できるようにした（図2）。

「おうちで名大博物館」に掲載するコンテンツは、①館内のようす（ドローン動画）、②博物画を知ろう、③常設展示紹介動画「ホンモノに会おう」、④野外観察園だより、⑤よみもの、⑥ホネパズルの6つとした（図3）。動画は、館内の様子を「ドローン撮影」していた動画と、梅村研究員の企画・撮影・編集による「常設展示紹介動画」を掲載した。この常設展示紹介動画は「ホンモノに会おう」と題し、#1 [巨大ドローン]、#2 [パロ]、#3 [奈良坂先生] の3編が掲載された。

掲載する標本資料の画像紹介の「博物画を知ろう」は、奈良坂源一郎の『ちゅうぎよすふ蟲魚圖譜 分冊一』の画像から10枚を門脇がピックアップし、画像サイズをスマートフォンでも閲覧しやすいサイズに調節し、PDFファイルにして掲載した。PDFファイルの最後のページには奈良坂源一郎についての紹介文章を和





図2 「おうちで名大博物館」のベースページトップ画像。



図3 「おうちで名大博物館」に掲載したコンテンツの画像。コンテンツは随時更新中。

文・英文で掲載した。

「野外観察園だより（旧：野外観察園の四季）」は元々ウェブサイトに掲載されていたコラムであったが、市民が閲覧できるページをまとめた方が見やすいと判断し、掲載した。

コラム「よみもの」と題し、収蔵品紹介を掲載した。この収蔵品紹介は、ジヤース教育新社の『文部科学教育通信』に掲載されていたもので、本館のウェブサイトに再掲載することをジヤース教育新社から許可を得て掲載した。コラムは10本程度あり、順次掲載することとした。

「ホネパズル」は、藤原が企画・制作していたもので、「トリケラトプス」、「ウマ」、「マッコウクジラ」

の3種類の組立骨格パズルである。これを一つのPDFファイルに連結してウェブに掲載した。利用法は、このPDFファイルをダウンロードし、プリントアウトしてもらい、はさみで切ってからパズルを楽しんでもらうようになっている。

なお、「おうちで名大博物館」を公開する際には、SNSを活用して周知した。公開した6月15日のアクセス数は通常200前後だったアクセス数から増え、530アクセスとなった。しかし、SNS等でその後の更新のPRがなかった場合はアクセス数が増えなかった為、「生きた博物館の活動」として、定期的な更新が必要である。

今後は、コロナ禍などによる臨時休館時の対応として、また、遠方の市民にも利用してもらう館として、オンラインで資料や動画でも学べるコンテンツを増やし、名古屋大学の研究をさらに発信できるように整備するのが望ましいのではと考えている。多くの人々にウェブサイトを通じてまずは当館に興味をもってもらい、いずれ来館して博物館資料の実物を見て・触れて・学んでもらえる体制を整えるしかけとして、「おうちで名大博物館」をこれからも更新できればと考えている。